

南アルプス市立白根巨摩中学校 学校関係者評価書（後期）

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員会	令和3年1月22日作成
第2回学校関係者評価委員会	
実施日	令和3年1月19日（火） 午後5時00分～
会場	白根巨摩中学校 校長室
参加者	学校関係者評価委員 6名
	長澤 光 芦澤 孝子 松本 俊昭 山岸 政樹 久保田 美子 中込 美彰
	学校関係者 4名
	芦澤 秀幸（校長） 中込 幸人（教務主任） 浅利 進（教頭） 石川 孝之（生徒指導主事）
1	学校側から提案された内容
	(1) 生徒アンケート結果について (2) 保護者アンケート結果について (3) 2学期の自己評価結果について (4) 生徒の生活について
2	評価されたおもな内容
	領域別・評価項目別の自己評価考察および意見交換
学校関係者評価	
1	全体評価と学校運営
	・今年度後期の教職員によるアンケート結果は平均4.7で、前期より高い数値となり、結果の指標として設定した平均4.5を上回ることができた。生徒アンケート、保護者アンケートの得点についてもほとんどの項目において、指標とする平均4.0を上回っている。これらの結果から、学校運営は良好に行われていると考えられるが、来年度より新学習指導要領の施行が始まることも踏まえて、明らかになった課題についてはさらに、検討・取組を進めていく必要がある。 ・今年度は社会的にも例年にない状況で、生徒たちの様子を見て取ることはなかなかできないが、アンケートの結果から、子どもたちの白根巨摩中学校での学校生活が充実していることが見て取れる。また、教職員の自己評価についても、自らの職業に対する責任感と充実感に裏付けられた自信をもち、生徒に寄り添いながら、その育成に全力を尽くしている様子を感じることが出来る。今後はアンケートの結果を分析し、少数ではあっても否定意見にも注目し、更なる改善をめざしてほしい。また、なかなか学校の様子をつかみきれない保護者のためにも、学校からの発信を充実させてほしい。 ・生徒の育成には時間ときめ細かい観察が必要と考えられるが、教職員においても健康に留意して教育活動を行ってほしい。

2 自己評価書に見る課題と対応について

○ 教科指導

- ・生徒、保護者アンケートから、ともに基礎学力の定着に対する願いがうかがえる。今年度の教育課程を工夫して行ったが、時間が足りなかったのも理由の一つと考えられる。学級内の課題を持つ生徒や、学習内容の理解が不十分な生徒への対応を含め、指導が大変な場面が多いと思うが、授業への工夫、時間の確保等を行うことで、学力の定着・向上への推進を図ってほしい。
- ・今年度、校内研究で取り組んだ新しい家庭学習の取組は定着しているようだ。それに伴い、週末だけでなく日常的な家庭学習の取組により、基礎学力の定着や、勉強に向かう意識の向上についてさらに取り組んでほしい。保護者との連携をさらに深め、自主的な家庭学習を定着させる方法を構築していくことも大切である。

○ 生徒指導

- ・生徒アンケートの結果から90%以上の生徒が「学校生活が楽しい」と考えている。今年度は1学期前半に休業が続いたため、集団生活の楽しさや学校での規律ある生活のスタートが遅くなったことからやや値が下がったものの、多くの生徒が学校生活に充実感を感じていることが分かる。また、こういった状況を背景に、教職員も生徒の支援について意識が高まっているようだ。今後もできるだけ生徒と向き合う時間を確保しながら、生徒に寄り添う指導で生徒の育成に力を入れてほしい。
- ・スクールカウンセラーやスクールサポーター、スクールソーシャルワーカー等多くの関係機関と連携し、当該生徒や保護者への対応をしている。生徒を取り巻く環境についても留意しながら、生徒の自己肯定感が育つように支援して行ってほしい。

○ 特別活動

- ・今年度のこの状況下で多くの行事によく取り組んでくれたと感じた。全てではないが、行事で成長する生徒も多いと思う。制限された内容であっても、そこに工夫が見られ、職員も生徒も結果に対する満足感が見られる。白根巨摩中学校の伝統である合唱活動を含めて、できるだけ生徒の安全に配慮しながら取り組んでほしい。
- ・生徒へのきめ細かい対応が、生徒・保護者アンケートにも表れている。生徒自身の意識も変わっているように感じられる。ただ、行事や生徒会活動の企画・運営をしていく際に、教職員の体調管理やライフワークバランスへの意識についても高める必要がある。

○ 信頼される学校

- ・生徒・保護者アンケートの結果から、学校生活に対する満足感が高く、学校と生徒・保護者の関係について良好であることが分かる。感染症拡大防止についてもよく取り組み、生徒の心身の安全について留意した指導が行われていると考えられる。
- ・生徒アンケートの結果から、家庭内で学校生活に対する会話が少なくなっていることが分かる。それぞれの家庭での事情もあることが予想されるが、保護者が学校の教育活動に対し理解されていない面もあると考えられる。学校からの地域、家庭への発信を工夫していく必要があるのではないかと。
- ・学校と保護者・地域連携について、このコロナ禍の中どのように工夫し、落ち着いたらどのように取り組むかを検討して行ってほしい。
- ・小中一貫教育の取組についても研究を進め、学習面や生活面における小中ギャップが無く、安心して過ごせる学校教育について研究し進めていく。

3 特記事項

なし

記載責任者

教頭 浅利 進

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員 委員長 長澤 光

副委員長 芦澤 孝子